



EBENEZER
OPERATION EXODUS

エチオピア のアリヤー を支援する

「わたしの子らを遠くから来させ、わ
たしの娘らを地の果てから来させよ。
わたしの名で呼ばれるすべての者
は、わたしの栄光のために、わたしが
これを創造し、これを形造り、これを
造つた。」

イザヤ書43章6節-7節

最終的な目標を達成する

国際



ヘリベルト・ゴンザレス
Heriberto Gonzalez
国際理事会
副議長

初めから終わりまで 神様のなさるすべてのみわざの最終的な目標は、神の栄光を現し、神の偉大な御名に誉れと賛美をもたらすことです。このことは、聖書を通して明らかにされています。

たとえばイザヤ書43章6節-7節には次のように書いてあります。「わたしは、北に向かつて『引き渡せ。』と言い、南に向かつて『引き止めるな。』と言う。わたしの子らを遠くから来させ、わたしの娘らを地の果てから来させよ。わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。」この聖書箇所によると、神様がイスラエルを造られたのは御自身の栄光のためであると宣言されています。

神様は確かにイスラエルという一つの国を選ばれ、その国を通して神様は解放の特別なみわざをなされました。そしてそれは神様御自身の栄光のためでした。神様はイザヤ書49章3節でこう語られました。「そして、私に仰せられた。「あなたはわたしのしもべ、イスラエル。わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現わす。」

また、聖書では、今の時代にユダヤ人が集められることが聖なることである理由は、このことが主の再臨のための準備をすることになるからである、と宣言されています。こうして、国々は主の御名を恐れ、地のすべての王はあなたの栄光を恐れるでしょう。(詩篇102:15-16) ですから、エベネゼル出エジプト作戦の働きにおいて、私たちの思い、情熱、行動すべてが、この最終的な目標と一致する必要があるのです。アリヤーを支援することは神に栄光をもたらすからです。

この最終的な目標と一致して、私たちの働きのビジョンは、主のしもべととりなし手となり、ユダヤ人が世界の国々からイスラエルの地へ帰還するのを支援すること、そして彼らの帰還のための神の御国の目的を宣言することなのです。この宣言の部分の行動のビジョンは、残念なことに多くの国々に怠られてきました。ですから、この流れを変えて行くため、また私たちの召しを完全に成就するために、私たちは国々において積極的に教

えをしていく必要があります。また、新しく創造的な教育的な方法を用いる必要があるでしょう。

ですから、国際理事会が強く確信していることは、今年からさらに拡大して強調すべきことは、特に教会に向けての教えを強化していくことです。なぜなら、キリストのからだが集まるところにおいてこそ、忠実なとりなし手や奉仕者や献身的な支援者を見つけることができ、それを通して今後予想される大規模や世界的なアリヤーを支援していくことができるようになるからです。

効果的かつ効率的な方法でこの目的を達成するために、地域的な構造を通して、リーダーシップ訓練や神学的教育を提供していく予定です。これは大きなチャレンジですが、神様の助けによって私たちはこのことを実行することができると知っています。

私たちはまず出エジプト作戦の基本理念について、地域や国家での対話を通して教えていくことから始めるべきです。基本理念を通して、そこから他の信念や行動も流れていくのです。それらを明確に理解することによって、私たちの間のあらゆる分裂や誤解も防ぐことができるでしょう。また、そのことは私たちの計画や目標だけではなく、それぞれの国で私たちが行っている行動を有効なものとするのです。

これらの基本理念は、私たちが教える中心としているものです。

それらを通して私たちが目指しているものは:

- ・キリストのからだに対する神の全体的な教えを伝える
- ・聖書の預言の成就の中にある主のアリヤーの聖なる働き
- ・ユダヤ人を祝福し、慰め、励まし、支援するという私たちの召し
- ・イスラエルの回復



・主が栄光のうちに再臨され、永遠の御国を確立されること

・置換神学、反ユダヤ主義、またイスラエルに対する教会の無関心と傲慢の誤りを指摘し、また、ユダヤ化することの誤りを指摘する

このことの緊急性は、LifeWay Researchによる最近の調査によって明らかにされ強調されたことでした。調査によると、福音的クリスチヤンで18歳から34歳の人々の58%が、イスラエルの存続、安全、繁栄を支援しているということです。この調査結果に関して、調査に参加した作家のヨエル・C・ローゼンベルグは次のように述べています。「教会が若い信者に対して、イスラエルに対する神の愛とご計画の健全なバランスのとれたしっかりした聖書的理解を伝えていかなければ、ユダヤ国家に対する全体的な福音的クリスチヤンの支援は今後の10年の間に急激に下がることでしょう。」この残念な事実は真剣に受け止める必要があるでしょう。そ

して、私たちは今後教会に対して働きかけをしていかなければならないのです。

まとめに、エベネゼルはキリストのからだに対して、特に若い信者に対して、聖書の全体のメッセージと関係づけてアリヤーのメッセージを伝えていく責任があります。そして、それを妥協せずに、神のイスラエルに対する目的に従って伝えていきたいと思います。

私たちは主が聖書に書かれている通りにアリヤーのメッセージを伝える使命を与えられていると感じています。ですから私たちは御国の思いによってこの働きを担う者として自分自身を見る必要があります。そして、聖霊の導きに心を開いて、教会やアリヤーに対する召しを持つ他のクリスチヤンの団体とさらにつながりパートナーとなっていました。この聖なる目的のために、私たちは皆様の積極的な参加を期待しています。

これをすることにより、ともに主の栄光を現し、主の偉大なる御名に讃れと賛美をさげましょう！



用語解説

アリヤー(Aliyah):

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関(Jewish Agency):

1929年C.ワイスマンによって創設され、エルサレムに本部をもつユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):

イスラエルに帰還するユダヤ人

写真

エベネゼルエンゲージイスラエル2018年のイスラエルツアーニて。若者たちが神のイスラエルとアリヤーに対するご計画と目的についての教えを受けているところ

私たちはみな一緒に 行くべきです!

驚くべきことに、神様が突然思いがけずにレオニドの娘と出会わせてください、まもなく、この家族は家族そろってアリヤーすることになりました！

私たちは昔からレオニドを知っていました。そして毎年彼を訪れていました。会うたびごとに私たちは彼に家族について尋ねましたが、私たちがどんなに聞いても、彼はいつも話題をそらしました。しかし、ある時、イギリスからのボランティアたちと彼を訪れた時に、彼は妻が亡くなつてから、自分の人生が無意味なものとなつたと話していました。私たちは彼の内側に痛みと孤独があるのを感じました。そして彼のために祈り続け、すべてを主の御手に委ねました。

主は私たちの心の願いがレオニドの子どもと孫たちにアリヤーについて分かち合うことであることを知つておられました。レオニドは、彼らがどこにいるのかを話そうとはしませんでしたが、神様は別のご計画を持っておられました。そして、レオニドの人生において奇跡が起つり始めたのです。

ある日、私たちがスミーというウクライナの町に行った時に、ある家族にイスラエル帰還の可能性について分かち合いました。その母親

アンジェラの元を去る前に、彼女は私たちに、遠くで一人暮らしをしている年老いた父親を訪れてほしいと頼みました。私たちは、「もちろん訪ねて行きますよ。」と言いました。そして彼について質問すると、なんと驚いたことに、それがレオニドだとわかつたのです。私たちは彼の子どもたちに分かち合っていたのです。神様がすべてを取り計らつてくださつたのです！

私たちは喜んでレオニドのところに戻り、彼に神様がこの全ての状況に御手を置いてください、私たちは彼の娘に分かち合っていたことを伝えました。レオニドは自分の耳を疑いました。そして、「彼女がイスラエルに行くならば、私も行きます。私たちはみんな一緒に行くべきです！」と彼は言いました。

しかし、必要な書類を整えるのにかなり時間がかかり、イスラエル領事に面接したりしている間に、レオニドはだんだん弱気になつていきました。しかし、自分の家族がイスラエルで新しい生活をすることを固く決意しているのを知つて、こう宣言しました。「私はもうここに一人で生活はしない！」そしてその後まもなく、私たちはレオニドと彼の家族全員を空港に送りました。そして彼らはアリヤー便に乗つてイスラエルへ向かいました。彼らにとつても私たちにとつても喜びにあふれる時となりました！



イギリス議長レオン・グリーンハルフと妻ジョイスがレオニドに支援物資ボックスを渡しているところ

貧困から喜びへ

その地域のユダヤ人のリーダーたちもこれほど貧しい人々にそれまで出会ったことがありませんでした。しかし神様はイスラエルで新しい生活を始めるための道を彼らに備えてくださいました。

私たちがサラと娘のタチアナと息子のキリルに初めて会ったのは、彼らがパームで非常に貧しい生活をしていた時でした。彼らのアパートはぼろぼろで、暖房もなければ水の供給もありませんでした。初めは、サラは私たちを彼女のアパートに入れるのも恥じているようでした。しかし私たちには彼らを毎週私たちの家に招き、少なくともその時は彼らがまともな食事を食べることができるようになりました。このことは病気がちのキリルにとって大きな助けとなりました。

私たちは一緒に食事をしながら、彼らにアリヤーするよう励ました。そして一年くらいかけて、私たちは彼らと良い関係を築くことができました。私たちはまた彼らに食料品の支援をしました。サラも家族もとても感謝し、やがて私たちを彼女の家に招いてくれるようになりました。その家は非常に老朽化しており、腐った壁や天井は湿っていました。このよ

うなひどい状況の中で、幼いキリルは呼吸困難の問題で非常に苦しんでいました。

私たちはこの家族を地域の会堂へ連れて行き、彼らをリーダーたちに紹介しました。すると、彼らは今までこんなに貧しいユダヤ人に会ったことがないと言っていました。私たちは会堂とともに協力して、彼らがアリヤーするための準備の支援をしました。そして2年後、すべての書類などの準備が整い、私たちはサラ、タチアナとキリルをイスラエルへの便に乗るために空港へ送って行くことができたのです。

その一年後、彼らは私たちに、今彼らはナザレのアパートに住んでいると伝えてくれました。サラは喜んでこのように書いていました。「それはまるで私たちが呪いから解かれたようです!」私たちはこの手紙にとても感動しました。そしてさらにサラのような家族が新しい生活を始めるができるよう、できる限りの努力をしていくよう励ました。

ロシア



アレクサンダー
Alexander
パーム代表



上:イスラエルのナザレの方向
下:アリヤーする前に自分の住んでいたパームの家の前で



ホロコーストのインパクト

ロシア



ニコライ
Nikolai
ピチャゴルスク
地区代表

ホロコースト博物館への訪問は、地方教会のクリスチヤン達に、意味深く良い効果をもたらしました。

北オセチアにおいて、私たちは地方教会のクリスチヤンたちとの関係を築くために働いてきました。ユダヤ人たちに対する神の目的を説明し、またクリスチヤン達が彼らに対して負っている負債について語りました。なぜならユダヤ人たちを通して、私たちは聖書と救い主メシヤが与えられたからです。

彼らを励まし、また牧師たちがユダヤ人支援の働きに参加できるようになるために、私たちはマラット牧師と彼の教会の聾啞の教会員たちを、シャロームユダヤ人居住区にあるホロコースト博物館へ招待しました。彼らは、記録映画を見ながら深く感動し、涙している人達もいました。「私たちはなぜ今までこのようなことを聞いたことがなかったのだろう?」と彼らは語っていました。

彼らは多くの質問をしていましたが、この博物館訪問を通じて大きなインパクトを受けていました。そして、私たちの働きに深く関わっていきたいと語っていました。

すばらしい成果がありました。今後、ユダヤ人に仕えるという目的において必ず実を結ぶようになることを確信しています。



ウズベキスタン



ザーナ
Zhanna
ウズベキスタンリーダー

灰からアリヤーへ

エレナとエレナが世話をしている人たちがアリヤーする準備をしていた矢先に、火事によって彼女のアパートも、アリヤー申請のために準備してきたすべての書類も失ってしまいました。

エレナには大人になった息子がいましたが、彼は精神的な病を患っていました。また、二人の孫がいましたが、その親たちはもう亡くなっていました。そのうちの一人は障害者でした。彼らはイスラエルで新しい生活を始めるのを楽しみにしていたところで、このような悲劇に見舞われたのでした。

しかし神様が介入されました。私たちは地方教会の牧師の助けを求めました。すると彼はエレナの家族に自分の家の部屋を提供してくれました。そしてその間に書類の準備をすることができたのです。ただエレナのカザフスタンの出生証明書だけが、再取得に時間がかかりました。

また、私たちはこの家族の必要について祈りのパートナーに伝えました。すると彼らは、冬服や靴や毛布など、この家族がアリヤー便を待つ間に提供してくれました。困難な状況でしたが、神様は忠実なお方です！



写真
悲劇の後で、新しい出発を
待ち望む



イスラエルで本当に幸せです！

レブは、アリヤーするために時間をかけてきましたが、今やアリヤーしてみて、彼の人生は始まつばかりと感じています。

私がレブに初めて会ったのは、今から10年前のことでした。彼はソチの会堂事務所で働いていました。その時に、私にコンピューターのことについて助けを求めてきました。私はあらゆる機会を用いて彼にアリヤーする可能性について話しました。彼には言い訳の余地はありませんでした。というのも、彼の年老いた父親がすでに30年前からイスラエルに住んでいたからです。彼はイスラエルでの生活に馴染み、今はもう96歳になっていましたが、元気にあふれていて健康で、いまだに眼鏡なしでも縫物ができるほどでした！

何年もの間考慮した結果、レブはついに父親のいるイスラエルへ帰還する決意をしたのです。イスラエルで一年過ごした後、彼は私に電話をしてこう言いました。「レナ、私は、自分

の人生が今始まつばかりだと感じていますよ。私は本当に幸せです！」

ロシア



レナ
ソチ代表

驚きの発見

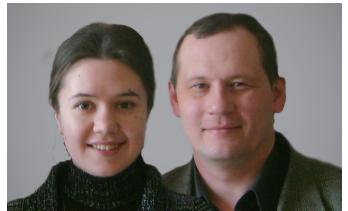
オレグとジュリアは、オレグの両親がユダヤ人であったにもかかわらず、まさか自分たちがイスラエルに移住できるとは思ってもいなかつたのです。

私たちは、彼らがこのことについて何も知らないと知った時、彼らにすべてを説明し、エベネゼルは彼らの必要な支援をすることを伝え、このことについて考へるように勧めました。

その何か月か後、オレグとジュリアはアリヤーする決心をしました。そして、彼らがオレグの両親たちに対して持っている思いを説明してくれました。オレグの父親が脳梗塞を患い、十分に動けない状態だったので、はじめは彼らのアリヤーにそれほど前向きではありませんでしたが、その後考えを変えて、彼らに祝福を与えました。それで、オレグは私たちに連絡し、彼らがイスラエルへ帰還することを喜びをもって伝えてくれました。そしてまた私たちの支援を求めました。

モルドバ

私たちはそのすべての準備、領事面接や空港への送り迎えなどの支援をすることができました。オレグの従兄はすでにアリヤーしていましたので、喜んでイスラエルの空港へ彼らを迎えに来てくれました。



パベル&リナ
Pavel & Lina
モルドバリーダー



アルゼンチン



ラウル&アナリア・ルイリー
Raul & Analia Ruillie
アルゼンチン
アリヤーコーディネーター

アルゼンチンからアリヤーするのを支援した方たちの中に、カリーナとその子供たちがいます。カリーナは長年アメリカに住んでいました。その間に夫のドロンに出会いました。彼らは二人の子ども、エデン（13歳）とヨルダン（9歳）がいます。2011年7月に、カリーナはドロンと離れた後、ガンを患っている母とできるだけ時間を過ごすためにアルゼンチンに戻ることを決めました。彼女はまた父親のこともとても心配でした。

彼女の母親は2012年11月30日に亡くなりました。それはカリーナの長女の誕生日の一日前のことでした。カリーナの父親は妻を失ったことで非常に落ち込んでいて、カリーナと住まずに一人暮らしを決心し、その3か月後に亡くなりました。

アルゼンチンには子供たちの家族はなく、ただ何人かの友達がいるだけでした。この国での生活は家族にとって本当に困難でした。彼らにとって一番近い存在は今イスラエルに住んでいるドロンだけでした。彼は家族を愛し恋しがっていました。そして、彼らの祖父母や叔父や彼らと同じ年ごろの従兄たちもみなイ

スラエルに住んでいました。ですから、カリーナは、彼らのそばに一緒に住むことが子供たちにとって幸せなことだと確信したのです。

カリーナは子供たちと一緒にアリヤーすることを考えているうちに、アルゼンチンでの暮らしがますます難しくなっていきました。なぜなら、彼らが住んでいたアパートのオーナーが彼らに立ち退きを求めてきたのです。この状況によって、彼女は家族にとっての最善がイスラエルへ移住することだと決めたのです。

それで彼らはエベネゼルチームにコンタクトを取り、書類を翻訳したり、パスポート取得とのための費用を支援したり、アリヤー便のために空港に彼らを送つたりという支援をすることができました。彼らは私たちの支援に本当に感謝していました。

彼らは2年前からイスラエルに住んでいます。そして、家族が一緒に住むことができて幸せです。



写真
カリーナと家族がイスラエルで幸せに暮らしている

ニューヨークからのアリヤ

「…イスラエルの子らよ。あなたがたは、ひとりひとり拾い上げられる。」イザヤ書 27:12

主は御自身の息子と娘を西の方から一人一人集めておられます。ニューヨークの奥地に入ってアリヤーの支援をすることはチャレンジでしたが、私たちがこの働きをした3年間の間に、ますます多くのオリムが支援を受けにやってきています。

タリアは、私たちが支援することができた一人です。彼女は、イスラエル帰還を決めるに至った経緯を次のように語っています。

「私は4回イスラエルへ行ったことがあります。訪れる度に毎回旅はさらに意味深いものとなっています。初めてイスラエルを訪れたのは、12歳の時で家族と一緒にでした。母と一緒に西壁に行ったのを覚えています。何分か経って私が母を見ると、母は泣いていました。私はその時、ただの壁なのになぜ母は泣いているのだろう、と混乱したのを覚えています。それで私が母になぜ泣いているのかと聞くと、母は、「大きくなったらわかるわ。」とだけ言い

ました。その8年後、私が西壁にもう一度行きました。その時は一人でした。私は壁に近くとすぐに泣きだしました。やっと私にもわかったのです。これはただの壁ではありませんでした。この壁は、ユダヤ人が守らることを表すものでした。また、私たちが体験してきた全てを表すものでした。その夜私は母に電話をかけてこう言いました。「お母さん、私やっとわかったわ。」その時から私はアリヤーしたいと思うようになりました。

この驚くべき働きの一端を担い続けるということは何という特権でしょう!タリアを空港へ送り彼女がゲートをくぐって彼女の故郷へ旅立つのを見送ることができたことは、大きな祝福でした!

心が神様の愛と喜びに満たされて、私たちはさらに深く意義深い方法で、ユダヤ人の友を祝福し慰めるという情熱によって、バトンを受け取り走り続けていきます。皆さんのお祈りと支援に心から感謝します!

米国



シャーリー・ローレンソン
Shirley Lawrenson
ニューヨークアリヤーコーディネーター



写真
タリアがイスラエルへ出発する



混乱の中の奇跡

2018年に、エベネゼルコロンビアは、神の恵みによって7家族のベネズエラのユダヤ人のイスラエル帰還を支援しました。ベネズエラは、その時期は政治的・社会的危機の中にあり、世界の注目が集まっていました。

私たちが支援することができた家族はみな、トラウマを体験してきました。自分たちの所有物すべてを失ったり、迫害を受けたり、飢えなどいろいろな苦しみを経てきました。中には、今や国外へ飛び立つという寸前になって何度も法的な壁にぶつかったという家族もあります。しかし神様の力によって彼らはそれらの壁を乗り越えてきました。また、車で長距離を旅する間に、何度も警察の検問を受けなければならなかったり、強盗に見舞われ、貴重品やお金を盗まれそうになったりしました。これらの勇敢な家族はたいてい夜に出発し18時間から20時間かけてイスラエルへ飛び立つための安全な場所にたどり着きました。

何千人のベネズエラ人は、国外へ何とか



逃げようとしています。しかしこの状況によって、コロンビアの出入国管理は非常に厳しくなっています。ユダヤ人の家族で陸路を旅してきた人たちの中には、日中で移民局が国境を開く時間が決まっている、その時間になると人々が殺到してベネズエラを出ようとしているそうです。そのような混乱の中で、家族の中にはばらばらになったり、またスーツケースの中身が出てしまい、少ししかない持ち物が散らばってしまったり、身分証明の書類さえも損傷を受けてしまうこともあるそうです。

しかしユダヤ人の家族それは、いったんコロンビアに安全に入ることができると、パスポートを更新することができ、その何日か後には、イスラエルへの飛行機に乗ることができます。彼らはみな、共通したあることを言っていました。それは、神様が御使いを遣わしてこの奇跡を実現させてくれたということです。その御使いたちというのは、世界中でエベネゼルとともに、預言が成就するために仕えている者たちのことです。

どうかエベネゼルチームが、ユダヤ人が無事彼らの真の故郷であるイスラエルに無事帰還できるための支援をしていくことができるよう、お祈りくださるようお願いします。



写真
勇気をもって危険を乗り越えてイスラエルに帰還する3つの家族

破れ口に立つ

「わたしは彼らを幸福にして、彼らをわたしの喜びとし、真実をもって、心を尽くし思いを尽くして、彼らをこの国に植えよう。」 エレミヤ32:41

主は私たちの間ですばらしいみわざをなさっています。主に仕えることができることは、本当にすばらしい特権です。主の栄光がこの地で現わされるために、神様は今国々に對して旗を掲げておられるのです。

私たちは、自分の心が神様の心と一致できるように、何よりもまず神様御自身を求めます。私たちの心が、神様がこの世代の人々にもつておられるみことばに心を開くことができるよう、またみこころを行う準備ができるように祈り求めていきます。

私たちのとりなし手としての立場は、神様と人々との間に立ち、神の怒りを受けるべき人々が神様のあわれみを受けることができるようになります。私たちはへりくだつて神様のあわれみと恵みを求めます。そして、モーセがしたようにユダヤ人のために神様の御前で破れ口に立つのです。(詩篇106:23)

モーセも知っていたように、私たちも主が私たちの報いであり、受けるべき分の土地であり、赦してくださる神であること(詩篇99:8)を

知っています。私たちはたとえそう感じることができなくとも、神様は私たちを相続財産と呼んでくださるのです。もし神様の臨在が私たちの間にないならば、また神様が私たちとともに行ってくださらないならば、私たちは動くつもりはありません。私たちの神様はなんとあわれみ深いお方でしょう!

父の働きに加わり、神のみこころを行うことができるよう、目を覚まして準備していましょう!アリヤーの大路と、イスラエルの完全な回復のために祈りましょう!そしてメシヤが栄光のうちに帰って来られる時に、メシヤを迎えることができるよう準備をしましょう!

父の働きに加わり、神のみこころを行うことができるよう、目を覚まして準備していましょう

アリヤーの大路と、イスラエルの完全な回復のために祈りましょう!

そしてメシヤが栄光のうちに帰って来られる時に、メシヤを迎えることができるよう準備をしましょう!

PREPARE THE WAY FOR THE

FOR SCANDINAVIA, BALTIC STATES
AND THE FSU COUNTRIES

GUEST SPEAKER: REV. WILLEM GLASHOUWER

MOLDOVA 15-19 OCTOBER

For more INFORMATION & BookinG visit:

www.operation-exodus.org/euro-reg-conf
or



EBENEZER
OPERATION EXODUS

\$850 USD
6 nights INC. HALF BOARD

2-8 December 2019

ISRAEL BIBLE TEACH
Jerusalem • Judea • Samaria •

FOR MORE INFORMATION &
TO Book Online www.operation-exodus.org/bible-week/tour
or email: tours@ebenezer-ef.org



EBENEZER
OPERATION EXODUS

祈り



ダニエラ・カスティージョ
Deniela Castillo
祈りのコーディネーター
ラテンアメリカ
ヤングアダルト

エチオピアのアリヤーを支援する

イスラエル



シュムリク・フリード
Shmulk Fried

Friends of Israel ディレクター

エチオピアのアリヤーは神様の驚くべき忠実さの表れです。エチオピアのユダヤ人は、イスラエルの民がみな、いつの日かイスラエルへ帰還するという神の約束への信仰の模範です。エベネゼルはアリヤーへの妨げが取り除かれるように祈り続けるだけでなく、実際面での財政的な支援も続けてきました。このような中で、私たちはケレン・ハイエソド移民基金とのすばらしい友情が与えられるという特権を受けました。ここで、このユダヤ人団体から、世界的なエベネゼルファミリーに対する感謝の手紙をご紹介します。

私は、ケレン・ハイエソド移民基金にユダヤ人の兄弟姉妹をエチオピアから彼らの故郷へと帰還させるために、国際エベネゼルが寛大な献金をしてくださったことを、心から感謝します。



2月4日月曜日の夜に、飛行機が80人のオーリムを連れてベンゲリオン空港へ到着しました。新しい移住者は、全国各地の吸収センターでイスラエルでの新しい生活を始めました。私たちはそれから丸2年間にわたって、彼らの必要を供給し、彼らが自立できるよう準備を助けています。

また、彼らの家族が空港で自分の家族と再会するのを見るのは本当に感動的でした。聖書の預言が私たちの目前で起こっていることは、疑う余地のないことでした。

イスラエルの人々に対する皆さんの愛と友情を通して、皆さんは散られた民を連れ戻すという神のご計画の一端を担う働きをされています。預言者エレミヤが2500年前に預言しました。「諸国の民よ。主のことばを聞け。遠くの島々に告げ知らせて言え。「イスラエルを散らした者がこれを集め、牧者が群れを飼うように、これを守る。」と。(エレミヤ31:10)

慈善をあらわすヘブライ語のことばは、「TZEDAKA」です。このことばは、「TZEDEK」という「義」を意味することばから派生しています。知恵に満ちたソロモン王は次のように語りました。「正義と誠実を追い求める者は、いのちと正義と誉れとを得る。」(箴言21:21)

神様が皆さんの義と神の民を助けることのゆえに、豊かに報いを与えてくださいますように。心から感謝をこめて

Operation Exodus

A ministry of Ebenezer Emergency Fund International

Ebenezer Operation Exodus International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org

Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster
NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org



エベネゼル緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱37号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
office@ebenezerjapan.org
<http://ebenezerjapan.org/>
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦)はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。